## JAFXボーツWEB

## 2018年JAF全日本ダートトライアル選手権第6戦 NOZAWAダートトライアル [JAF公認No.2018-1710]

開催日:7月7~8日 開催場所:モーターランド野沢 格式:国内

主催: ROAD-KNIGHT [クラブ登録No.加盟20012]、RT-はと車 [クラブ登録No.加盟20048]

フォト/滝井宏之、JAFスポーツ編集部 レポート/ JAFスポーツ編集部

## N1 岡翔太選手、"イケる"路面でタイトル確定一番乗り!





日本ダートトライアル選手権シーズン折り返しの第6戦が長野県のモーターランド野沢で開催された。

オートクロスを開催できる公認コースとして 生まれた野沢は、外周に幅広い走路を持つダートコース。硬質路面と軟質路面が交互に現れる、 先か読みにくいコースとしても知られている。

昨年は灼熱の一戦だったが、今年は西日本に 豪雨をもたらした梅雨前線の影響で、週末は雨 予報となっていた。ところが、土曜は弱い雨が 降ったものの、日曜は日照に恵まれ、第1ヒー ト後半ではドライ路面へと変化していった。

決勝コースレイアウトは、ギャラリーが見守るハイスピードな外周を走る前半区間と、タイトコーナーが連続する内周の2部構成となった。

第6戦には139台がエントリー。多くのギャラリーが見守るドライ路面の野沢で、今年のタイトル争いを左右する戦いがスタートした。

今年から全日本ジムカーナでN部門が廃止されたことで、全日本ダートラでも、N部門からSA部門への自発的な移行が始まっているが、その影響を大きく受けているのがN1だ。

これまで、名車・DC2インテグラとともに、数々の有望株を輩出してきたN1。しかし、今年は参加台数が減少しており、今回もクラス成立ギリギリの5台による戦いとなってしまった。

しかし、これまでのインテグラワンメイク状態は様変わりして車種も豊富となっており、ベテランと若手がコンマ差でタイトル争いを演じる、内容の濃い戦いが今回も展開された。

N1で今季4勝を重ねているのが、若手期待の岡翔太選手で、2016年に初めて獲得したN1タイトルを再び狙うべく快進撃を続けている。

対するライバルは、CJ4Aミラージュで奮闘 する関東の古沢和夫選手と、ジムカーナ出身の 精緻なドライビングが身上の森大士選手だ。

今回は関東ラウンドで速さを見せるJN15パルサーの北原栄一選手も加わって、岡選手のタイトル確定を阻止する攻防が始まった。

しかし、第1ヒートは岡選手が1分45秒 421で暫定ベストタイムを叩き出し、2番手には コンマ8秒差で森選手が付ける状況となった。

第2ヒートは、例年に比べて路面の悪化が大きくなかったこともあり、ドライ路面で走れた前半の各クラスでは秒単位のベストタイム更新

N1&D / I.NI 優勝は岡翔太選手。指導者でもありメカニックでもある杉尾泰之選手(左)とガッツポーズ。2.NIの2位は古沢和夫選手。3.NIの3位は森大士選手。4.NIの4位は北原栄一選手。5.NIの5位はN車両のMR-Sで挑む北陸の山口順平選手。6.第2ヒートに降り出した雨の影響で第1ヒートのタイムで優勝した谷田川敏幸選手が自身15回目のタイトル確定。「ウネリやギャップ、硬いところや砂利があったりと、いつもの野沢の路面だったから、自分の走りがしっかりできたね。2本目は雨の影響でギリギリまでタイヤ選択に悩んだ。1本目からきっちりタイムを出す、いつものスタイルが生きた感じだね」。7.D部門2位は川崎勝己選手。8.雨の第2ヒートで自己タイムを更新する離れ業を見せた亀田幸弘選手がD部門の3位に、



















SA2&N2/9. 鎌田卓麻選手がSA2で3連勝、今季4勝目を獲得。「自分だけ超硬質ドライでしたが、実は1本目 に電気系トラブルが出て、2本目もその症状が出たんです。それでも勝てたのはタイヤの効果が絶大だったという ことですよね」。10.鎌田選手に約コンマ6秒差にまで迫ったSA2黒木陽介選手が悔しい2位。11.3週間で修復して きたSA2北村和浩選手は3位。タイトル争いに首の皮一枚で残った。12.今季は入賞を重ねるN2信田政晴選手が 2016年以来の優勝。「1本目はウェットタイヤ、2本目はドライと朝から決めてました。僅差の優勝だったので、早く 使いこなせるようにしたいですね」。N2では足立由夫選手や影山浩一郎選手、山田武史選手ら関東勢が速さを見 せた。13.N2北條倫史選手は4連勝ならずの2位。14.スポット参戦の足立選手は自己最上位の3位を獲得。















PN1&PN2&SA1 / 15.PN1 優勝は上野倫広選手。「今回は一番自信があるタイヤを選び、懸 案のギャップの走破性については、ダンパーの番手をいじって対処する方法を試しました。それが 効きましたね」。16.PN1首位の山崎利博選手はコンマ01秒差の2位。17.PN1佐藤卓也選手は第1 ヒートのミスを帳消しにする3位。18.PN2優勝は宝田ケンシロー選手。「野沢では過去にリム落ち したこともあるので、1本目のウエットタイヤでは厳しいなと思って、2本目は195/65のドライタイ

ヤを初めて履いたんです。細かいミスはたくさんありましたが何とか勝てましたね」。19. 約コンマ1 秒差の2位は優勝間近のPN2河石潤選手。20. うねる路面に翻弄されたPN2川島秀樹選手が3 位。21.SA1優勝は小山健一選手。「普段はあまり使わない外径の大きいタイヤを選んで、2速の ところを1速でずっとアクセルを踏めたのが良かったかなし22.SA1の2位は地元長野の飯島千尋 選手。23.SA1の3位は岩澤研一選手とダブルエントリーする女性ドライバー平澤宏美選手。











SC1&SC2/24.SC1は雨の第2ヒートで大逆転を演じた山崎迅人選手が優勝。「雨がヤバかったんですが、超硬 質ドライタイヤを信じて、もう踏みちぎりました。インは外さずストレートはまっすぐ。せこいと言われる走りに徹し ました(笑)」。25.SC1の2位は佐藤秀昭選手。26.SC1の3位は奥村直樹選手。27.雨の影響で1本目勝負となった SC2。第1ヒートで後続を約1秒引き離した磯貝雄一選手が今季初優勝。「今回は2本目に雨が降りましたが、それ を教訓に1本目からドライタイヤでいきました。みんなウェットタイヤだったので驚きましたが、1コーナーからちゃ んとトラクションが得られました。後はちょっとトラウマになってる超硬質ドライタイヤの使いこなしが課題です」。 28.SC2の2位は吉村修選手。29.SC2の3位は田口勝彦選手。

が相次いで、仕切り直しの戦いとなった。

N1では、北原選手が1分44秒台で暫定べ ストを塗り替え、続く古沢選手が1分42秒 649のスーパーベストを叩き出す。森選手は1 分42秒台にはわずかに届かず2番手に留まり、 最終走者・岡選手のフィニッシュを待った。

岡選手は自己タイムを3秒以上アップ。1分 42秒220で古沢選手を逆転し、2本ともベスト の完全勝利をモノにした。これで5勝目となっ た岡選手は、2018年タイトル確定一番乗りと、 自身二度目のN1タイトル確定を果たした。

「2本目の路面はもう少し乾いてほしかったで すが、『イケる』と思える路面になってくれたの で、超硬質ドライタイヤを選びました。チャン ピオンが掛かった一戦なので、メンタル的に も、路面とのマッチングというより『このタイ ヤを履いて自信を持って走る』方がイケるん じゃないかなと思ってました。自分の選択に自 信を持って攻められたと思います。

今回の路面は、ここでグリップが欲しいと思

う場所にギャップがあったりして、稼げるとこ ろで稼げなかった印象はあります。でも、ケミ コンも出てきて、"自分が好きな野沢"が見えて きたので、『よっしゃー!』という感じになれま した。なので、今日はあまり悩まずに気持ち良 く走れましたね」とは岡選手だ。

全日本ダートラのタイトル争いは後半戦の序 盤で大詰めを迎えており、D部門の谷田川敏幸 選手も今季5勝目を挙げて、自身15回目とな る全日本タイトルを確定させている。